

大阪・関西万博具体化検討会 議事要旨

日時:平成 31 年 1 月 25 日(金曜日)15 時～17 時

場所:経済産業省本館 17 階第 1・2 共用会議室

出席委員:

古賀委員(座長)、秋山委員、石毛委員(代理野口氏)、井戸委員、大崎委員、尾崎委員(代理西村氏)、尾山委員、樫畑委員、加藤委員、黒田委員(代理廣瀬氏)、澤田委員、渋谷委員、角委員、瀬名委員、土屋委員、鳥井委員(代理高田氏)、福井委員、松下委員、松本委員、森下委員、吉村委員

議事概要:

事務局より本検討会の目的及び検討いただく主な論点について説明し、委員による討議が行われた。最後に、事務局より今後の進め方について説明した。

【委員からの主な意見】

- 大型のイベントの場合、よく言われることが2つある。一つ目は、待たされるというストレス。施設内の導線計画と、待つ楽しみを形成していくべき。二つ目は食。食は高くてもおいしくないとよく言われるが、テーマに即して一定基準の価格やクオリティのコントロールをしっかりと行うべき。
- 情報提供について、インバウンドの人々に対するわかりやすさ、利用しやすさを配慮することが大事。
- 来年 10 月からドバイ博が開催される。ここで設置される日本館において、いかに大阪・関西万博を効果的に PR するかが重要。展示やプレゼン、食などを通じて、大阪・関西の魅力を発信すべき。
- 今の日本においては東京だけでなく、東京と関西という二軸が必要。二つの“都”で経済や文化を牽引すべき。
- 外国からのたくさんの目線が必要。そのためにはワーキングのヒアリング活動において、外国人から広く思いを聞いていただきたい。
- 子どもから大人まで「遊ぶように学ぶこと」をキーワードにエンタメと教育の融合ができればよい。
- ユニークな小工場の社長を全国、世界中から招くことも面白い。
- 明治以降、我が国は生産性を重視してきたが、それを転換して、SDGs にあるように、生態系、多様性についても考慮され、そして何よりも人を優先する社会の到来を表現できる万博を示していただけることを大変嬉しく思う。

- 大阪・関西万博、という名称とした以上は、関西圏の広域で多様性を活かしてほしい。テーマの焦点である Connecting Lives にあるように、グローバルな視点で異文化が共生し、人が繋がっているコネクトをうまく表現できるような万博にしていきたい。
- (万博は)常に関西全体の取り組みということを忘れないで進めていただきたい。
- 若者の意見を反映できるような仕掛けを作っていただきたい。
- 2021年に「ワールドマスターズゲームズ 2021 関西」が開催される。健康という意味で、深いつながりがあるので、この大会の開催をしっかりと万博につないでいく工夫をしたい。
- 万博のレガシーをどう次世代に繋げていくのか、という視点を持ち続ける必要がある。
- 関西全体で取り組む意味合いから、サテライト会場の設置を柔軟に認めてほしい。また、万博に来た人を関西のみならず全国に周回させる必要がある。
- 交通アクセスについて、陸上は全て(陸路でつながっている)東部から夢洲に向かっていく。海上アクセスをしっかりと考える必要がある。岸壁があれば神戸から入れる。あわせて、クルーズといった、瀬戸内海をにらんだ発想も必要。
- 如何に飛行場を活用するか。徳島、白浜を加えた関西 5 空港をうまく運用できれば、と考える。
- これらの取組が関西全体の浮揚につながると信じている。
- 未来社会の実験場の実現に向け、開催までの 6 年間で試行錯誤し、万博会場ではその集大成を実装することが必要。そのためには規制緩和が必要。スーパーシティのモデル地区に夢洲が指定されれば、次々と実証実験が可能となる。
- 期間を区切って出展したり、バーチャルで企業のショールームを見せるなど、万博に幅広い企業が参加できるよう、多様な出展の在り方を検討すべき。
- 万博で実現したい技術を公募し、素晴らしいものには万博で実現するというコンテストをすればよい。
- 中小企業にとどまらず、関係したい国や自治体、大企業なども利用できるオープンなデータベースを設けると参加意識が高まる。
- 多様な人材の活用が出来る場としてもらいたい。従来の発想にとらわれない若者、女性、外国の方々にも積極的にかかわってほしい。健康に関する万博であることからシニアやハンディキャップを持つ方も楽しめる視点が必要。
- 夢物語かもしれないが、一か所ですべてのパビリオンが見ることができれば、炎天下で長時間待たなくて済む。また、サテライトや、(コストなどから出展が難しい)中小企業の問題が解決するのではないか。
- SDGs として日本が発信力を持っているコンテンツは、長寿と平和。日本は長寿社会のフロントランナー。人生 100 年になると生き方、社会の在り方が大きく変わってくる。健康で持てる能力をフルに活用して、ハッピーに生きる社会が見える万博に。
- そのためには、テクノロジーと社会の仕組みのイノベーションが必須。民を核とする民産学官のオープンイノベーションのプラットフォームを万博の場で作っていき、その中で課

題解決や夢の実現を共創する場(リビングラボ)が出来ると良い。万博が終わってからも、社会実験が持続していくように設計できると良い。

- 万博を大阪だけでなく個性輝く関西の周辺都市全域で取り組んで、東京と異なる魅力を持った経済文化圏を作ることを念頭に置いて、設計していくのが良いと思っている。
- スーパーシティ構想を万博の場で。デジタル経済圏のモデルケースにし、一気にキャッシュレス社会を実現すべき。また、ビーコンを利用した混雑管理や機能性食品をつくることも。
- 政府館や自治体館では健康をテーマにしてほしい。日本の医療のモデルルームを作ってほしい。日本の医療や予防の先端技術を輸出産業として育てることもできる。そうしたものを特区の中で実現してほしい。
- 予防医学も大変重要。そこでの知識は生活習慣の改善につながる。中小企業の技術も入ることが出来る。
- 高齢者にも優しい万博にしてほしい。かといって、高齢者ばかり集まるようでは養老院になってしまう。若者に来てもらうためには、若者の意見を聞いて、行ってみたいと思う万博にしてほしい。そうすると万博に勢いが出る。
- 未来志向を前面に出すと、どこの国も同じようなものが出て来かねない。日本、関西、大阪の歴史豊かな文化を持つ場所で行うにふさわしい万博、その上での未来を忘れないように、色々なテーマやパビリオンも考えてほしい。
- 炎天下で並ぶのを避けるために、人気パビリオンを分散することや、サテライトや他都市での体験も考えられる。行列に並ぶ待ち時間に楽しめる工夫。それでも行列待ちせねばならない際の対策として、水滴を微細なものにして振りかけて濡れずに涼をとる技術もある。
- (万博の展示は)映像を抜きにはできない。8Kのイベントでの表現力は素晴らしいものがある。
- 一人乗りのドローンを作る話もある。技術は大阪の中小企業しか持っていない技術も含まれている。
- 大阪・関西万博という名称は、最初はしっくりこなかった。愛称募集するだろうが、いい愛称を作っていただきたい。
- 日本は超高齢社会で、その解決策を世界中が注目しているので、その先例となるよう取り組んでほしい。
- どのパビリオンや広場に居ても、自分のいる場所がわかるようにしてほしい。
- 大阪の緑、川、橋など(美しい景観を)世界に訴えることを、2025年は通過点としてその先をにらんで取り組んでほしい。
- いろんな国の人たちが来るが、大阪の持つ古い歴史を生かし、アフリカでも、東南アジアで、当該国との歴史に触れておくと、親近感を感じてもらえると思う。
- 島なので、防災対策をきちんとしてほしい。

- 若者からの意見に関して、立候補前の検討会では、倫理的に問題がある意見、勉強不足と思われる意見等をそのまま公表したことで混乱を招いた経過があったと思う。今回の検討会では若者の意見の聞き方をきちんと検討すべき。特定の若者の団体を誘致委員会が後援しているが、活動を見直すべきではないか。まずい意見が出たときに大人がだめだと言えるようにしておかなければいけない。
- 今、誘致委員会が後援している若者の団体にはファシリテーター、科学コミュニケーターを付けるべき。自分たちもアイデアを出したいというほかの若者を同様に後援し、支援する体制が国にある場合はそれを広くアピールしていただきたい。
- 万博会場で若者の企画を実現する場合には、全国から公平に、コンペで意見を募るべき。
- 先進の決済サービスはカードやスマホが不要で、いわば「自分の体がスマホ化する」時代が来ている。そうすると自分をより知って、自分と社会の関係がより深まっていく、いわば「自分が自分の主治医」となる。大阪万博では、自分はデータを取られるだけでなく、能動的に情報を取って、自分が自分の価値を知り、自分の可能性を理解する。それが「いのち輝く」ということではないか、と思う。
- SDGs について、(その実現に寄与する万博というのは)素晴らしいと思った。日本が主導したゴール 3 を中心に、ムーブメントを作してほしい。
- 健康だと思っている人に対して、エンターテインメントを重ねて運動を促すことができれば、先進国に向けて価値を提供できると思う。IoT の活用が必須。2025 年ではなく、その先の 2030 年を見据えた模擬的なものを出さなければ、2025 年時点で新しさを打ち出せない。
- (夢洲内の)コンテナヤードを撤去すれば巨大な船が着けるようになる。改めて新設する必要がないので検討の価値があるのでは。
- ヘリを神戸から飛ばすことも可能では。神戸から泉南まで 5 分で着く。
- 子供たちが万博から新しい好奇心や、憧れを持たばレガシーになると思う。
- 海外から来る人、海外に向けての宣伝をやっていく。SNS 含めてどう画像的にみせるか、が重要。また、現地での呼び込み宣伝が重要。待っていては来てくれない。
- モビリティ関係では、どういう交通手段及びルートで行くのが良いのかを示すプラットフォームが瞬く間に世界に広まったが、関西はサッパリ進んでいない。(未来社会の)実験場というが、世界は既にやっていることを今からすぐにも実験を始めてキャッチアップしていかねばならないことがたくさんある。
- 昨年5月に、次世代医療基盤法が改正され、病院の持つ医療情報をビッグデータとして二次利用することが可能になった。それにプラスして、健康・未病の人のデータも活用すべきではないか。(関西健康・医療創生会議が推進する「千年カルテプロジェクト」や、神戸、けいはんなのリサーチコンプレックスでの取組事例の一層の推進)

- 夢洲は IR も念頭に置いた万博になる。エンターテインメントをどうやって扱っていくのかも大きなテーマ。
- 大阪・関西万博では「オーガニックイノベーション」(既存の技術どうしを掛け合わせるのではなく、無から有を生み出すイノベーション)を展示しないと、日本の底力がみえないと思う。関西のみならず日本の優秀な研究機関にある隠れたシーズをくみ上げて、オーガナイズする旗振り役を探さなければならない。アカデミアの厚い壁を打破し、世界がびっくりするようなものを万博で見せられるようにするには政府の力も必要だ。
- 未来社会の実験場として、万博の機会に立証・実験すべきテーマは、出来るだけ広くアイデアを求めるべき。政府関係機関が研究開発支援プログラムを公募する際、ものによっては万博の場での実証・実験を公募要件に広げていくのがよいと考える。
- World EXPO というからには、世界中の英知を結集し、協力すべき。従来の方博は国ごとのパビリオンが一般的であったが、今回は人類共通の課題という一つのテーマに基づいたグローバルなパビリオンが出来れば魅力的。国家の枠を超えた、コラボレーションの場が出来れば、日本人の「オーガナイズ能力」をアピールできる。
- SDGs の達成に貢献する万博を謳っているが、SDGs の 17 目標に文化の側面は前面に出てこない。日本の文化をいかに織り交ぜて発信していくかというポイントを忘れてはいけない。
- 万博において、最先端の展示はあくまでも手段。その先のロマンや新たな価値観、直感が重要。(70 年万博の)月の石が注目されたのは、石そのものだけでなく、宇宙や進歩にワクワクしたから。その先の未来を感じ取れるようなもの、例えば、iPS 細胞を使って生きている心臓、脳を作るとかを展示すれば、命は何かを考える上でのセンターピンになると思う。
- 社会実験場として重要なのは、万博において規制を取り払うべき。万博のレガシーとして、関西が二極目としてきちんと日本を引っ張るという構図が必要。再生医療や空飛ぶ車など、新技術を引っ張っていくべき。今の常識では考えられないようなことを日本全体で行うのは難しいが、万博会場でやっていくのが、日本の発展にもつながると思う。
- 夢洲は海上にあるので、海上輸送はやるべきと考えている。瀬戸内ともつながっており、海上にある強みをいかしていきたい。
- 大阪メロから夢洲の提案が出てきたが、その後のまちづくりも考えて、民間を活用してコストを圧縮も考えている。
- 日本の子供が夢を持てるようなものにしていきたい。最先端の技術に接することが出来るような仕組みを実現させていきたい。
- 最後に若手の登用。70 年万博の時は、コシノさん、黒川さん、磯崎さんも 30 代。クリエイター部門については、政治家や官僚が主導するのではなく、新しい発想で、若手のクリエイターが実務部隊に入ってやっていくのが良いと思う。

- 重要なのは「参加」。パビリオンを並べれば博覧会ができる、というのは過去の話。新しい博覧会をイメージするには、未来に役立つ知恵を持つ人々や企業・団体が主体的に参加したくなる参加計画をしっかりとつくるのが重要。
- 博覧会は会場に来て心が変わることが重要。出会う事で、気持ちが変わっていく。多くの人の気持ちが変われば、社会が動いていく。そのためには、具体的な展開、心に感動を与えていくものを考えていく必要がある。
- 世の流れが早すぎる現代において博覧会は何ができるのか、仮説を設定する必要。これまでの概念を一度捨てるべき。
- デジタルでつながる時代、人々はリアルなつながりを求めていると思う。つなぎ直しを出来るような博覧会ができればよい。
- 地域の活性化について。万博はスプリングボード。これを使って日本の地域がより高いステップに行くのが重要。世界的な都市間競争はベンチャーエコシステムの優劣に左右される。ベンチャーエコシステムはデジタル革命の促進にもつながる。この点で、関西は世界に比して遅れている。2025年に世界に関西有り、とできるようにしていくことが万博の一つの意義。
- ベンチャー企業を育てるにはベンチャーキャピタルの役割が大きいと言われるが、関西においては、まず世界レベルのアクセラレータが絶対的に不足している。フランスはベンチャーエコシステムの形成で後発であったが、アクセラレータに力を入れ、今やフレンチテックとして躍進している。また、日本のベンチャー企業は、国内市場に目が向いている。もっと海外を見なければならぬ。
- ベンチャーエコシステムの形成には、産官学等に広がるネットワークが必要。この点で関西は東京にも遅れている。我々地元経済界はスタートアップ企業に対しても、要所にネットワークをしっかりと持っている。ぜひこれを有効活用していきたい。
- 「いのち輝く未来社会」というのは万博のテーマであると同時に SDGs・Society5.0 など大きなテーマがいくつかある。そんな中で、今からすべきことも多く、現在から 2030 年までというプロセスステップがあり、万博も 2025 年という大きなステップがあり、技術革新が日進月歩な中で、今までの発想でゴールとステップを決めるのも重要だし、毎年ステップ合わせというか、変化に合わせて対応でき共有化できる組織運営も重要である。
- 「いのち輝く未来社会」の実現に向け、「夢」「驚き」、その中で構想段階から「夢大きく」が大切。国内外の多くの多様な意見、アイデアをつのり、特に、今の子供たちにも万博で自分たちの夢を実現したいとの思いがあるのではないか。(万博に)参加して将来大人になったらこうしたい、という思いを大阪・関西・日本・世界と結びつけるようなことができればと期待している。
- 距離的にまた現地に参加が難しい老若男女の国内外の多くの人々が参加できるよう、バーチャルな体験ができるようなものにしてほしい。大阪・関西・日本の歴史を今一度世界へ発信する機会としてほしい。

- 参加意識を高めることは重要。国内においては、県の日があるとよい。関西の日といった地方の日でも。国際的には国連諸機関と繋がって週も。諸団体、例えばロータリークラブやライオンズクラブなどに参加要請することで、それぞれ多数の会員を擁しているの
で、参加意識が芽生えるのではと思う。
- 関西全域での開催は、大賛成。ただ、分散型も良いが、単に分散というだけでなく、徘徊型
というか巡回型、夢洲からそれぞれのランチ(枝)が生える形でなく、(各サテライト)全体で周遊したほうが良い。
- 万博は世紀の大事業。災害が発生したときに、外国人を含め、自分がどこに行くべきか
知るすべがないという状態にさせない工夫が必要。万博で未来社会を、と言いながらそ
ういう事が発生してはいけない。

【今後の進め方について(事務局より説明)】

- 今は誰かのアイデアに絞る段階ではないため、いろんな人達のいろんな思いを拾い上げ
ていく。WG 委員には拾い上げのハブになっていただき、検討会にフィードバックする。特
定の団体に限らず色々な若者からの意見も聞いていきたい。
- まずはどういう材料があるか幅広く拾っていくことが大切であり、委員の周りでそういった
議論を巻き起こして、面白い人がいればどんどん声をかけてほしい。
- 運営も来場者に十分満足を与えるものでなければならず、その点でも知見をお借りした
い。

以上

【お問合せ先】

商務・サービスグループ 博覧会推進室

電話: 03-3501-0289

FAX: 03-3501-6203